

NPO 法人 ふろんていあタウン工房

# ふろたん通信

2022年4月23日

広報センター

No. 42



前号1月17日付の「ふろたん通信」N0.41は今年の新春号、「昨年発信したN0.37～N0.40の見出しの言葉を辿った少し風変わりな通信でお届けします」と書いていました。

昨年新春号N0.37を覗いてみましょう。「正月7日に1都3県緊急事態宣言が出てさらに厳しい自粛ムードが当分続きそうですが、活動を再開できる日を目指して皆さんから寄せられた情報の発信を続けていきます」と書いてあります。

新型コロナの変異株オミクロン株の拡大が世界中に広がっていると書いた今年の新春号N0.41でしたが、ロシア・ウクライナ問題で世界が分断されようとしています。

本号では、そんな中でもなんとか頑張って活動を続けていこうとしているふろたん工房や仲間の団体等の近況をお伝えします。

## ◆「二都研」と「創生研」の活動

不安なニュースばかりが届く日々の中で「ふろたん工房」は新年度を迎えましたが4月7日にURリンクージュ担当の第41回「二都物語研究会」を開催しました。

テーマは「URリンクージュ海外プロジェクト推進室の近年の取り組み」でスピーカーは相田さん、今回はミャンマーから離れてコンゴ民主共和国のキンシャサ市の都市交通マスタープランが紹介されました。

次回以降URJICAチーム・開構研・入江三宅の4社持ち回りで実施されます。



2011年3月の東日本大震災がきっかけになってスタートした「復興都市研究会」は、2018年度からは今迄の経験を広く国土計画に役立てようと「創生研」という名称にして研究会活動を継続、スタート時から事務局昭和(株)で座長は松村忠雄さん、コロナ自粛で暫く中断していましたが近く再開の予定です。

## ◆ふろたんインタビュー

2020年1月の新春インタビュー「ミャンマーとの絆・今泉記念ビルマ奨学会」で、今泉清嗣さんとティティレイさんのお話を伺ってから二年間も中断のままです。

暗いニュースなど気にせず少しでも明るい気分になれる第12回インタビューの実現を目指して現在検討中です。もう少しお待ちください。

## ◆ふろたん技研レポート

最初の緊急事態宣言の時から、外出禁止の引き籠り生活の時間を活かして「ふろたん技研コーナー」への研究レポートの投稿を呼びかけてきました。今迄Vol.18迄掲載していますが、Vol.19で宇塚幸生さんの「三角地区の魅力(相似形の都市計画)」Vol.20で森下毅一さんの「屋久島トレッキングレポート」が、近日中に掲載の予定です。これからも多くの方々からの投稿をお待ちしています

2020年12月21日のVol.13「市民の森づくり・北海道のある町での活動」の執筆者で東京から北海道に移住してNPO北広島森林ボランティア・メイプルで活躍されていたふろたん工房設立時からの会員、青柳志郎さんが今年2月1日にご逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。写真は2020年9月に北広島嶋田忠ネイチャーフォトギャラリー会場で写したものです。



## ◆まちナビ倶楽部

「ふろたん工房」の先輩格法人「まちナビ倶楽部」は、コロナ禍の自粛ムードの中で今年初めから活動を停止していましたが、ようやく活動再開4月21日に飯田橋のボランティアセンターで総会を開催しました。「居心地観察会」もやがて再開されることでしょう。

## ◆ミンガラバー・ユネスコクラブの活動

通信39号で、カフェぼれやあれで行ったジャーナリスト北角裕樹氏とゴールデンバガン店主のモモさんのお話を伺う会のことを報告しましたが、その後も変わらず活動を続け情報発信しているのがミンガラバー・ユネスコクラブです。

2月27日には阿佐ヶ谷地域区民センターで「ミャンマーの状況を知り私たちにできること」を考える会を開催し、会場に33名・オンラインで18名が参加しました。ミャンマー人の方も多く参加していて、ミャンマーコーヒーを自分で焙煎して支援する話をされていたのがテーテーさんです。

4月1日にぼれやあれに寄った時に安彦さんから改めて紹介され、コーヒーの店をいつか開業したいと考えているということをお聞きしました。昨年暮れの恵比寿の店「びるまの竖琴」閉店でモーココさん・佐野さんから戴いた思い出の品の中の、開店時から店の看板として飾ってあった竖琴の置物の話をしたらとても関心を持たれ、差し上げることになりました。



4月16日に藤沢市のご自宅から置物を保管していた池袋までお出でいただいた

**テーテーさんご夫妻に無事お渡しすることが出来ました。**  
**いつの日か咖啡店が開店したら、店の名前は「びるまの竖琴」かな…?**